

## はじめに

2017年から2019年の2年間、ココネ言語教育研究所(CIFLE)にて、英語教育の諸相についての動画講義を集中的に制作する絶好の機会を得た。できた動画は、150本を超える。内容的には、私が慶應義塾大学SFCの大学・大学院の講義を動画として収録したものが多いが、大学の講義でカバーしなかったものも、これまた多い。なお、現在は、CIFLEをPEN言語教育サービス(PLES)として、引き継いでいる。

私は、数多くの論文を国内外で発表してきたが、動画という形で講義をまとめるという作業は、論文制作とはだいぶ異なる、創造的で生産的な営みであることに気づいた。ひとつの動画を撮り、その内容を反省的見地から振り返ると、新たなアイデアが次々に出てくる。動画の本数が増えるにしたがって、アイデアが繋がり、新しい動画講義が生まれるといった具合に、である。自分の講義を繰り返し視聴することで、論文では経験したことのないような、アイデアの編集作業が可能となるのである。その結果が、150本を超える動画講義である。

改めて講義リストを検討してみると、エクササイズ論、評価論、英語力論といった具合にまとめていくことができ、それらを総合すると、「英語教師力アップの要件」が明らかになると直観した。そこで、本企画では、「英語教育：理論と実践」と名打って、何巻かの「動画講義ブック」のようなものを作成しようと考えた。「動画を視聴しながらノートテキングができる」という発想である。そのため、本企画では、講義で使用したスライドを冊子の形にまとめ、QRコードを利用することで、いつでも動画講義にアクセスできるようにした。

本巻は「英語教育：理論と実践」シリーズの第4巻である。ここで取り上げるのは、新しい英語教育のための有効な手法（メソッド）である。具体的には、本巻は、以下の9つの講義から構成される。

講義 1: チャンキングの考え方:総論

講義 2: Grammar in Chunking: 表現のための英文法

講義 3: チャンキングの応用: 英文を味わいながら読む

講義 4: The EIJ Method: 有効な語彙の学び方

講義 5: Navigator in Speaking: まとまった内容を英語で話す力を養成する

講義 6: A Communicative Way: 教科書をコミュニカティブに使う方法—1

講義 7: A Communicative Way: 教科書をコミュニカティブに使う方法—2

講義 8: A Communicative Way: 教科書をコミュニカティブに使う方法—3

講義 9: A Communicative Way: 教科書をコミュニカティブに使う方法—4

講義 1 では、これからの英語教育で必須の考え方となるチャンキングについて、その考え方の特徴と有効性について解説する。自然言語処理はチャンキングによって行われる。ということは、スピーキング、ライティング、リーディング、リスニングのいずれの表現モードを使った言語活動においても、チャンキングの考え方は妥当する。

講義 2 では、Grammar in Chunking (GIC) という、新しい文法指導の方法について説明する。文法用語を使うことなく、表現のための文法力を鍛えるための方法が Grammar in Chunking という考え方だ。

講義 3 では、英文を味わいながら読むためのチャンクリーディングの薦めです。

講義 4 は The EIJ と呼ぶ語彙学習の方法です。English in Japanese の略語ですが、日本語が文脈を示し、その中で英語表現を学ぶことができるため、有意義な形で単語力を増やすことができます。

講義 5 は Navigator in Speaking (NIS) の紹介です。まとまった内容のことを筋の通った形で話す際の方法で、文章作成にも応用ができます。GIC と EIJ と NIS は英語教育の「武器」になると確信しております。

講義 6 から講義 9 は、教科書をコミュニカティブに教える方法として A Communicative Way を紹介します。講義 6 はその総論になります。A Communicative Way は 1 つの英文（作品）を Context-Setting, Content Construction, Language in Text, それに Discussion and Presentation の 4 つの観点を切り口にみていこうというものです。講義 7 では、Context-setting の考え方について具体例を交えながら紹介します。講義 8 では、Content Construction と Language in Text についての考え方を解説します。そして、講義 9 では、教科書を使った Discussion and Presentation の手法について述べます。

9 つの講義を通して、真に使える英語力を指導するための手法を身につけるようにしてください。

田中茂範

PEN 言語教育サービス代表

慶應義塾大学名誉教授



動画をスキャンください。

## Lecture 1



# PLES講義 チャンキング的発想力を鍛える: 総論

田中茂範

PEN言語教育サービス代表  
慶應義塾大学名誉教授

### NOTES

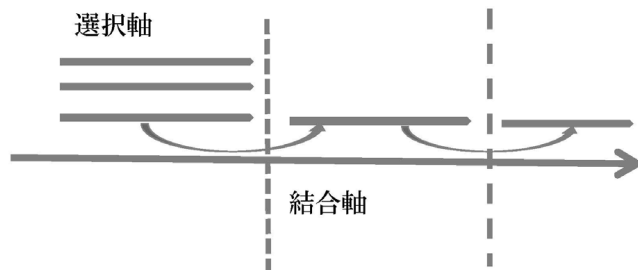
## Chunking

*Chunking* が自然な言語処理プロセス

**CHUNKING**

*chunk-1* **+** *chunk-2* **+** *chunk-3* **+** *chunk-4*

## 言語の2つの軸



## Chunking

→  
Long ago /

→  
people believed /

→  
that the dead came back to life /

→  
on Halloween.//

→  
Now /

→  
people remember Halloween /

→  
by going to parties /

## 断片としてのチャンク

チャンク - 文脈から取り出せば断片  
断片は全体の一部ではない  
断片は完全な文を想定しない

チャンキング=思考の流れ(言語の流れ)  
日常会話のような自由な流れ(Free flow)  
文章のように編集した流れ(Edited flow)

---

## チャンクとチャンキング

用語の定義

- チャンク(chunk): 言語活動における表現単位(意味単位)
- チャンキング(chunking): チャンクの連鎖化(チャンク結合)

チャンクとチャンキングに注目した英語学習理論:  
「チャンキング理論」

## チャンクの定義

画定の基準

①句・節という言葉単位:

[This room /has been refurnished/ according to your request].

[People believed/ that the dead came back to life on Halloween]

②慣用表現チャンク:

[I'd appreciate it if you could / send me a copy of the report /  
by tomorrow morning]

③息継ぎ:

[I stand here today / humbled / by the task before us / grateful /  
for the trust / you have bestowed / and / mindful / of the sacrifices /  
born by our ancestors] (Obama 2009)

---

## チャンキングの弾性と局所的意味の保持

- チャンキングの最重要な基準は「息継ぎ」であり、息継ぎには個人差があるため、弾性という性質がある。
- 息継ぎは音声言語の特性だが、文章を読むという行為においても、読みのチャンキングと息継ぎは基本的に同期する。
- チャンキングは個人差があるが、局所的な意味がこわれるようにチャンキングが行われることはない。

(局所的意味の保持の原則)

## 局所的意味の保持 [preservation of local [=chunk] meaning]

文字列: {わたしのくるまがさくやだれかにぬすまれた}

○[わたしのくるまが/さくや/だれかに/ぬすまれた]

→私の車が、昨夜、誰かに盗まれた。

?[わた /しのく/ るまがさく/ やだれかにぬ / すまれた]

→意味を成さない

## 言語活動の表現単位はチャンク

日常会話:断片連鎖

It's kind of funny

because -----→理由を説明する空間を確保

I grew up

in a real ski resort town as a child

in a place called Banff, Canada

and I never got into it.

(変だよ。というのはね、ぼく、子どもの頃、本当のスキーリゾートの町で育ったんだ、カナダのバンフという場所なんだけども、で(それなのに)、スキーに夢中になったことなんかないんだから)



## 「表現単位はチャンク」は文章英語も同じ

文章テキストは文の連鎖からディスコース(談話)が構成されている。  
しかし、表現単位はチャンクであることに変わりはない。

| 日常言語                                       | 文章言語   |
|--|--|
| チャンキングの<br>自由度が高い。<br>対話的で時間的<br>制約下でやりとり。 | 時間的制約がない。<br>モノログ的で、自己<br>編集が可能のため、文<br>を整えることが可能。 |

## 文法的に不完全な発話

「不完全な発話」が spontaneous speech の実相であり、自然さ(naturalness)を醸し出している。

会話における表現活動の原理

1. 情報追加の原理: 必要に応じて情報を追加する。
2. 軌道修正の原理: 必要に応じて繰り返し、言い直し、言いよどみ、話題の放棄など軌道修正を行う。

## 英語感覚を身につける

英文を頭で作る(負荷がかかる作業)

➡ チャンキング的発想力を身につける

---

## 日常会話の実態:断片連鎖

会話の流れを作るのは

「文一連鎖」ではなく、

「断片一連鎖」である

chunk と chunking